

相 坂 養 魚 場

○オームリ 飼育 試験

I 目 的

本県における内水面漁業開発の一環として、ソ連産オームリを導入し、増養殖の可能性を検討する。

II 調査内容

1. 調査期間 昭和45年4月～全46年3月
2. 調査場所 十和田市 相坂養魚場
3. 調査員 相坂養魚場長 三 田 治
技 師 小田桐 譲 二
業務員 松 田 毅
" " 松 田 銀 治

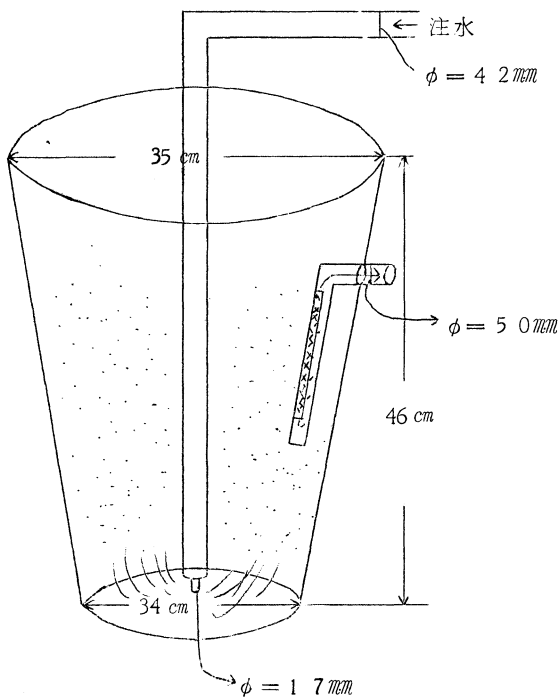
4. 調査項目

- (1) 発眼卵のふ化
- (2) 親魚養成

5. 調査方法

- (1) 第1図のようなふ化器を試作し使用した。
- (2) 養成池は7.6m×2.2m水深0.75m注水量2.3ℓ/sとし、ニジマス成魚用粉末を餌料とした。

第1図 オームリ用ふ化器

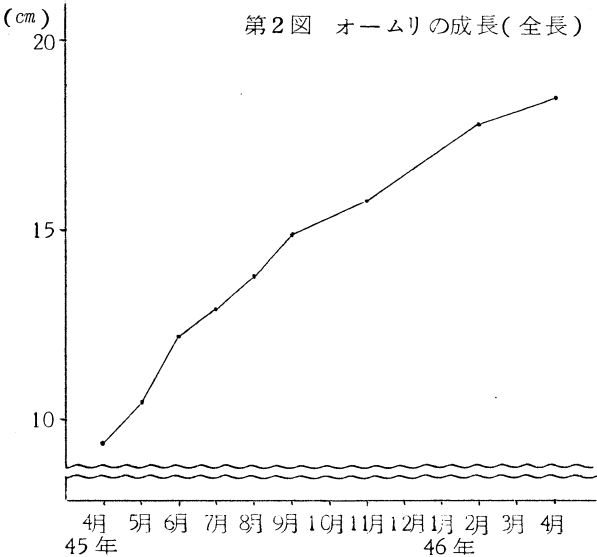


Ⅲ 調査結果

- (1) 45年3月30日発眼卵10万粒を收容した。
ふ化率は約80%であったが、ドブネズミの食害を受けたので、9月29日まで生残った115尾を十二湖に移殖した。
- (2) 親魚養成中のものは満2年経過し、全長18.5cmになった。

Ⅵ 調査の成果および今後の課題

1. 調査の成果
- (1) 45年度ふ化した稚魚は、餌料生物の発生が悪く、またドブネズミの食害等もあって、115尾の生残りしかなかった。
- (2) 44年度ふ化した稚魚は順調に成育中である。
2. 今後の課題
- (1) 問題点
病害に対し非常に弱い
- (2) 今後の課題
オームリに適した餌料の開発と、魚病対策について検討する必要がある。



第1表 オームリ魚体測定表

測定年月日	全長	体長	体重	測定尾数
	cm	cm	g	尾
45. 4. 2	9.0	7.9	5.5	20
" 5. 1	10.1	8.7	7.4	50
" 6. 8	12.1	10.7	14.0	20
" 7. 1	12.9	11.8	16.5	20
" 8. 1	13.8	12.1	20.6	32
" 9. 1	14.9	12.8	25.7	35
" 11. 2	15.8	13.7	31.5	20
46. 2. 1	17.8	15.3	43.5	20

卵稚魚の生産配付及び養魚指導

I 卵，稚魚の生産配付

魚 種	ニ ジ マ ス	マ ゴ イ	イ ロ ゴ イ	キ ン ギ ヨ
採 卵 数	5 0 0 万粒	5 0 0 万粒	2 0 0 万粒	5 0 万粒
発眼率・ふ化率	8 5 %	4 0 %	4 0 %	3 0 %
県 内 配 付	卵 2 1 0.5 万粒 稚魚 2 6.5 万尾	1 2 8 万粒 3 8.5 万尾	8 3 万粒 1.2 万尾	5 万粒
県 外 配 付	卵 1 6 5 万粒			

II 養魚指導

	養魚全般	魚 病	ニジマス	コ イ	計	備 考
5 月	5				5	五戸，田子，十和田町
8	1		2		3	東通村，十和田市
9				1	1	上北町
1 0		2			2	十和田町
1 1			7		7	東通村，新郷村
1		1	1		2	倉石村，七戸町
3	4	2			6	東通村，大間町，三厩村，青森市

III 参観者の状況

4月：3,500人 5月：10,000人 6月：5,000人 7月：1,500人
 8月：4,000人 9月：1,000人 10月：1,000人 11月：200人
 12月：100人 1月：10人 2月：10人 3月：10人
 合計 26,330人

VI 今後の課題

冬期間湧水量が減少し，水量不足による魚病の発生，斃死事故のおそれがあるので，水量確保の必要がある。